

# 地方航空路線活性化プログラムに係る 効果検証に関する懇談会

---

## 発表資料

平成27年12月11日

のと里山空港利用促進協議会(事務局:石川県企画振興部空港企画課)

能登～羽田路線(全日本空輸)

「能登ー羽田路線持続化プログラム

～地方空港の課題に対応した新たな航空需要の創造～」

# I 能登ー羽田路線に係る取組実績概要

## 1. 取組目標

### ○取組方針

これまでの利用促進活動を継続しつつ、従来の枠を超えたチャレンジを行う。

### ○取組目標・ターゲット

- ①新たな航空利用目的の創出による利用者増 ⇒3,850人利用者増
- ②これまでの空港集客域外から(へ)の利用者増 ⇒2,060人利用者増
- ③羽田空港を経由した利用者増 ⇒1,440人利用者増
- トータルで搭乗率+3%(利用者増7,350人/年)を実現し、安定的な路線維持を実現

### ○目標設定(提案時)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
搭乗者数:1,915人	搭乗者数:4,340人	搭乗者数:7,350人

## 2. 対象路線の課題

### ○地域における課題と当該路線の必要性

能登地域は、半島振興法で指定される条件不利地域で、人口減少・過疎化が進行。山間地にあるため主要産業に乏しく、観光・交流人口の拡大が地域活性化の観点から不可欠。

このような地域にあって、のと里山空港唯一の定期便である能登ー羽田路線は以下の観点から地域に不可欠。

- ・ 地域のゲートウェイとして、条件不利地域における観光入込客確保の拠点となっている。
- ・ 人口減少下において、航空需要による交流人口確保が地域活性化の観点から不可欠。

## 3. 実績概要及び目標の達成状況

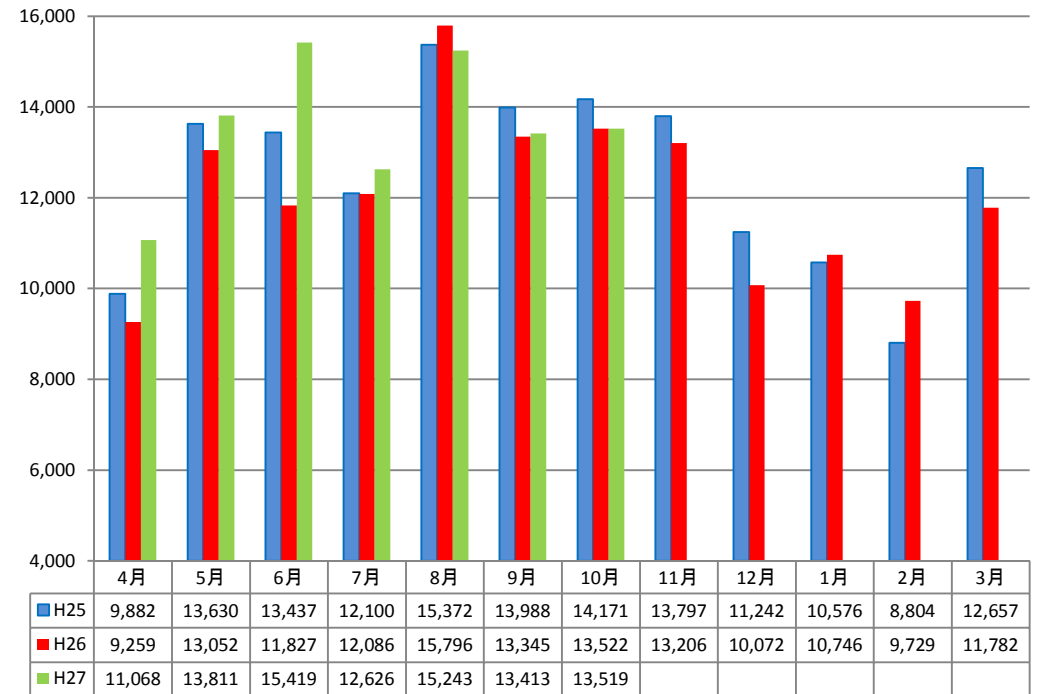
- ①社会活動型 511席増(H26:238席増、H27:273席増 継続中)
- ②定期観光バス 161席増(H26:161席増、H27: 10月～開始)
- ③レンタカー 1,139席増(H26:163席増、H27:976席増 継続中)
- ④ふるさとタクシー - (H26: -, H27: - 継続中)
- ⑤広域乗継 742席増(H26:525席増、H27:217席増 継続中)

**H26:1,087人増(搭乗率0.9%増)10月～3月**

**H27:1,466人増(搭乗率1.2%増)4月～9月**

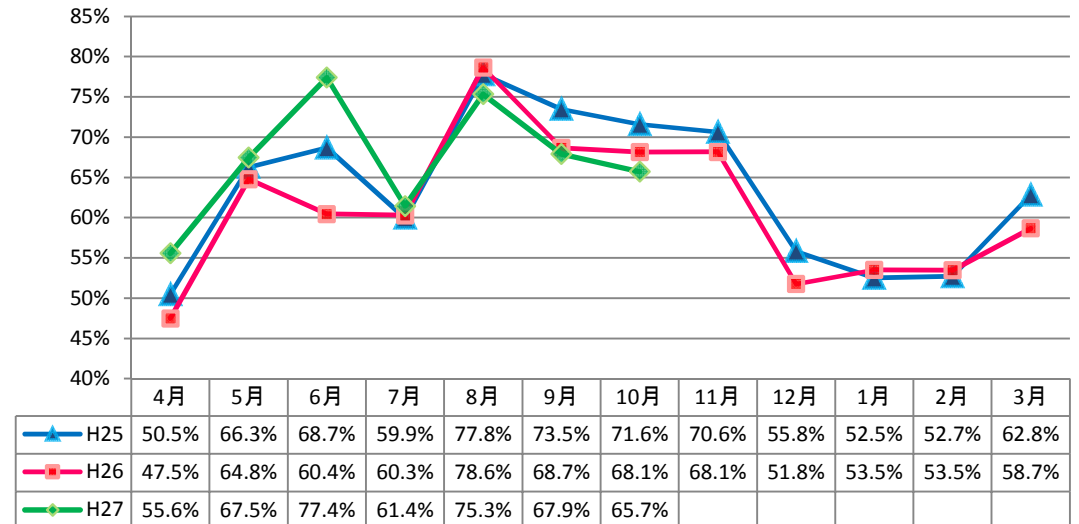
## 4. 旅客数・座席利用率

### 旅客数推移(月別)



※27年10月旅客数は速報値

### 座席利用率推移(月別)



※27年10月座席利用率は速報値

## II 能登ー羽田路線に係る取組の効果検証

### 1. 実効性

#### (1)各取組の効果検証

#### 1. 社会活動型観光プログラムによる空港利用の創出【取組費用814万円(見込)】

##### 1. 取組の実施概要

###### (1)社会活動体験ツアー【303万円】

- ・社会的活動に関心の高い層向けの体験型ツアーを実施  
通常の観光コースではなく、能登の特産品の収穫体験や鉄道の洗車体験等を盛り込み

###### (2)能登体験モデルツアー【511万円】

- ・丸の内朝大学と連携し、首都圏在住外国人モデルツアーや朝大学考案の体験ツアーを実施  
朝大学受講生が首都圏目線で、能登の地域資源や生活習慣(酒蔵、輪島塗、能登島の暮らし等)の魅力を掘り起こした体験プログラムを開発。プログラムを活用したツアーや外国人に特化したモデルツアー等を実施

##### 2. 取組の効果・成果及び要因分析

###### (1)社会活動型ツアー

参加者数:126席

【H26】

- ・牡蠣等収穫、鉄道車両洗車(3月)  
大学生:26人(52席)

【H27】

- ・山菜収穫・調理(4月)  
社会人:26人(52席)
- ・キリコ祭り、塩田、鉄道車両洗車(9月)  
大学生:11人(22席)

アンケート満足度 95%

###### (2)能登体験モデルツアー

参加者数:385席

【H26】

- ・モデルツアー:26人(52席)  
外国人、朝大学受講生など

・朝大学関連:134席

【H27】

・朝大学関連:199席

アンケート満足度 89%

- ・参加者の満足度は非常に高い  
→ 物見遊山とは違う体験や、都会にはない日本らしさなどが高評価
- ・旅行会社に一定の補助を実施  
→ 参加者負担が抑えられ、集客は概ね順調

(外的要因)

新幹線開業やNHK連続テレビ小説「まれ」の放映により能登への注目度が向上し、集客につながった。

航空旅客増【目標】H26:350席+H27:300席 →【結果】511席(H26:238席、H27:273席=継続中)

##### 3. 今後の改善すべき点

- ・多人数高頻度の催行には受入能力の問題もあるが、事業効果の拡大に向けて関係機関と調整し、ツアー回数を確保
- ・価格設定と集客力のバランスについて旅行会社と十分協議した上で早めの募集に努める
- ・アンケートでは現地案内者(ボランティアガイド、通訳、職員)の対応が不十分との意見もあり、改善を検討





## Ⅱ 能登一羽田路線に係る取組の効果検証

### 1. 実効性

#### (1) 各取組の効果検証

### 2. (1) 航空接続型定期観光バスを組み入れた旅行商品の造成【取組費用1,702万円(見込)】

#### 1. 取組の実施概要

- ① 空港集客を拡大し新幹線と航空を組み合わせた利用促進を図るため、金沢駅～空港間の定期観光バスを活用した旅行商品を造成【686万円】
- ② 旅行雑誌等に特集記事を掲載し、能登の観光情報＋定期観光バスで巡る旅をPR【116万円】
- ③ バス運行費補助【900万円】

#### 2. 取組の効果・成果及び要因分析

##### ① 実績

【H26】10～12月運行(週3日)

・組込型 商品造成数:2件

販売数計:51人(航空旅客増 51席)

・オプション型 商品造成数:2件

販売数計:36人(航空旅客増 36席)

※H26造成4件中2件は県補助金で支援

・旅行会社モニターツアー:41人(席)

購買意欲の喚起に向け、さらなる魅力アップを図るため、首都圏旅行会社の販売担当者から意見聴取

【H27】10～3月運行予定(週3日)

・組込:造成2件

・オプション:造成2件

アンケート満足度 97%(H26)

##### ② 掲出実績:1回(旅の手帖)

##### ③ 実績

【H26】(運行費補助は県費)

運行日数:27日

利用者数:120人(4.4人/便)

【H27】

運行日数:72日(予定)

(参考)

10月の利用状況

13日運行(約18人/便)



##### 【H26】

・新幹線開業に向けた試行として実施。バス利用者数・販売実績は振るわなかったが、利用者の満足度は非常に高かった。(千里浜やのと鉄道など)

##### 【H27】

・10月運行開始。バス利用者は前年より増加傾向だが、冬季の利用確保が課題。

##### (外的要因等)

・新幹線開業後、石川県への入り込みが増加(補足資料参照)し、バス利用も増加傾向。  
・旅行会社からは、運行期間が半期・頻度が週3日では販売しにくい、特に個人向けには厳しいとの意見もある。

航空旅客増 【目標】H26:700席＋H27:0席 → 【結果】161席(H26:161席、H27:10月開始)

#### 3. 今後の改善すべき点

- ・引き続き旅行会社と協議していくが、H27の利用状況も勘案しながら、個人等の利用増や将来的な採算性の確保が難しいと考えられる場合は、より効率的な手法がないか検討したい。



## II 能登一羽田路線に係る取組の効果検証

### 1. 実効性

#### (1) 各取組の効果検証

#### 2. (2) 広域利用のレンタカー低廉化実験【取組費用1,368万円(見込)】

##### 1. 取組の実施概要

新幹線(金沢駅等)や小松空港を利用して来県する旅行者を能登へ誘引し空港集客を拡大

##### ① レンタカーキャッシュバックキャンペーン【860万円】

金沢・小松等で借りて空港で乗り捨てるレンタカー料金を一部助成

##### ② 旅行雑誌等に特集記事を掲載しPR【508万円】

##### 2. 取組の効果・成果及び要因分析

##### ① 実績

	【H26】	【H27】※各実績は4-9月
助成期間	12~3月	4~3月
助成対象	空港→金沢等、金沢等→空港	金沢等→空港
助成金額	1台3,000円	1台2,000円
助成件数	906件(空港着399、空港発507)	1,080件
空港レンタカー	3,081台(対前年+74台)	7,636台(対前年+444台)
旅客増	74台×2.2人=163人	444台×2.2人=976人

##### ② 掲出実績: 5回

(るるぶ、ノジュール、散歩の達人、ビッグバードプレス、JTBエース)



##### 【H26】

・対象に隣県レンタカー会社も含めたことで調整に時間を要し、やや周知不足。

##### 【H27】

・レンタカー会社にも浸透し、助成件数は増加。時期の違いから単純比較はできないが、件数はH26の1.8倍。

H27: 180件/月

H26: 100件/月(空港着分)

【参考】レンタカーの組み合わせ先  
(のと里山空港以外の店舗)

H26: 小松空港48%、金沢29%

H27: 金沢40%、小松空港38%

新幹線開業後、金沢のシェアが上昇

航空旅客増 【目標】H26:550席+H27:750席 → 【結果】1,139席(H26:163席、H27:976席=継続中)

##### 3. 今後の改善すべき点

・関係機関と連携して認知度向上を図るとともに、さらなる利用増に向けて、次期キャンペーンの内容を検討していきたい。



## II 能登ー羽田路線に係る取組の効果検証

### 1. 実効性

#### (1) 各取組の効果検証

### 3. ふるさとタクシーと広域観光タクシーの接続実験【取組費用2,570万円(見込)】

#### 1. 取組の実施概要

公共交通(タクシー)を活用し、能登地域内の観光利便性を向上。

##### ①タクシーキャッシュバックキャンペーン【889万円】

・ふるさとタクシーと観光タクシーを接続して利用した場合に助成。

##### ②旅行商品広告でPR(フリープランの旅行商品でタクシーで巡る旅を提案)【1,681万円】

#### 2. 取組の効果・成果及び要因分析

##### ①実績

	【H26】	【H27】※各実績は4-9月
助成期間	12～3月	4～3月
助成金額	ふるさとタクシー:1人500円 観光タクシー:1時間2,000円	同左
助成件数	596人	789人
ふるさとタクシー	7,207人(対前年▲262)	9,078人(対前年▲877)

##### アンケート(4～9月)

助成による利用意向:22%  
キャンペーン事前認知度:60%

##### ②掲出実績:28回

(阪急交通社、ビッグホリデー、リロクラブ)

- ふるさとタクシー:空港アクセス専用の乗合タクシー(定額運賃、1人900円～)
- 観光タクシー:観光ガイド付きの貸切タクシー(時間制運賃、1台1時間5,000円～)

安価だが個々のニーズに対応できない乗合タクシーと、高額だが様々なニーズに応じて運行できる貸切タクシーを組み合わせることで、手頃な価格で利便性の高いサービスが提供可能。

##### 【H26】

・ふるさとタクシーの利用増とはならなかったが、同タクシーは年度当初から減少が続いており、キャンペーン開始後は減少率が若干改善(4～11月:対前年93%、12～3月:96%)

##### 【H27】

・4～6月は前年比プラスだったが、7月以降マイナス

##### 【共通】

・旅行商品でのPRにより、事前認知度は比較的高い。

航空旅客増【目標】H26:1,050席＋H27:1,050席

#### 3. 今後の改善すべき点

- ・ふるさとタクシー・観光タクシー両方を利用した場合のみ助成対象という仕組みが分かりにくいという声が多いことから、より分かりやすいチラシ等により理解を深め、利用増につなげたい。
- ・空港利便性の向上に向けた二次交通の改善策を探るための利用実態調査等の実施を検討したい。



## Ⅱ 能登ー羽田路線に係る取組の効果検証

### 1. 実効性

#### (1) 各取組の効果検証

#### 4. 羽田空港のネットワークを活用した広域集客【取組費用770万円(見込)】

##### 1. 取組の実施概要

羽田空港での乗継を活用し、首都圏以外の地域へ集客域を拡大

##### ①乗継旅行商品の造成支援【640万円】

- ・九州、四国等から能登への羽田乗継旅行商品の造成を支援

##### ②旅行雑誌等への特集記事掲載【130万円】

- ・能登の観光情報＋羽田乗継をPR

##### 2. 取組の効果・成果及び要因分析

##### ①実績

【H26】:2件、525席

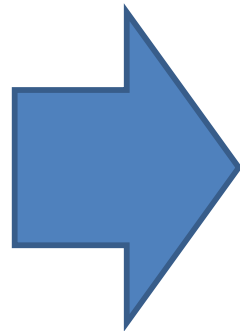
- ・四国 45人(45席)
- ・九州 480人(480席)

【H27】:2件、217席(9月現在)

- ・九州 25人(25席)
- ・四国中国 114人(192席)

(四国中国は継続中)

②掲出実績:1回(じゃらん)



##### 【H26】

・九州発ツアーの販売が伸びて500席を超える実績

##### 【H27】

・石川・能登の認知度向上により、ツアーへの申込は相当数あったが、首都圏発の他ツアーと日程が競合し、催行中止となったケースがあったため、上期の実績は低調。(能登のダイヤの関係で、午前中の便が乗継で利用しにくいいため、午後便に需要が集中)

##### (外的要因)

新幹線開業やNHK連続テレビ小説「まれ」の放映により能登への注目度が向上し、集客につながった。



航空旅客増 【目標】H26:350席＋H27:400席 → 【結果】672席(H26:525席、H27:217席＝継続中)

##### 3. 今後の改善すべき点

・航空乗継利用促進協議会の活動を通じて乗継の認知度向上に取り組むとともに、利用者への特典付与等を検討しながら、航空会社・旅行会社と連携して利用増につなげたい。



# II 能登一羽田路線に係る取組の効果検証

## 2. 継続性

### 実施・連携体制について

#### 実施体制

社会活動型	定期観光バス	レンタカー	タクシー	羽田乗継
<b>協議会事務局</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー企画</li> <li>・体験受入機関との調整</li> <li>・情報発信</li> <li>・ツアーアテンド</li> <li>・全体調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース企画</li> <li>・立ち寄りスポットとの調整</li> <li>・PR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成スキーム検討</li> <li>・PR、全体調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成スキーム検討</li> <li>・PR</li> <li>・全体調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社との調整</li> <li>・現地出向宣伝</li> </ul>
<b>旅行会社</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品造成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品造成</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品造成</li> </ul>
<b>その他関係機関</b>				
<b>大学生協</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー企画</li> <li>・ツアー情報発信募集</li> </ul>	<b>立ち寄りスポット</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗客の案内受入</li> </ul>	<b>レンタカー協会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加会社への協力要請</li> </ul>	<b>タクシー協会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加会社への協力要請</li> </ul>	<b>航空会社</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象エリアの検討</li> <li>・現地旅行会社との調整</li> </ul>
<b>朝大学受講生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー企画</li> <li>・外国人モニター集客</li> </ul>	<b>バス会社</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース企画</li> <li>・PRツアー</li> <li>・販売</li> </ul>	<b>レンタカー会社</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成スキーム検討</li> <li>・PR</li> <li>・利用案内</li> </ul>	<b>タクシー会社</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成スキーム検討</li> <li>・PR</li> <li>・利用案内</li> </ul>	
<b>体験受入機関</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー企画</li> <li>・受入体制づくり</li> </ul>		<b>観光協会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR</li> </ul>	<b>観光協会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR</li> </ul>	
<b>県出先機関関係市町</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー企画</li> <li>・体験受入機関との調整</li> <li>・ツアーアテンド</li> </ul>		<b>同盟会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成手続</li> <li>・PR</li> <li>・アンケート</li> </ul>	<b>同盟会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成手続</li> <li>・PR</li> <li>・アンケート</li> </ul>	

#### 連携体制

##### 【社会活動型観光プログラムによる空港利用の創出】

- ・社会活動体験ツアーは、旅行会社、大学生協、奥能登事務所、協議会で協議の上、実施。ツアー日程、コース(体験メニュー)、PR方法(パンフレット、メルマガ等)等について協議。具体の体験メニューは、奥能登事務所・協議会が、各受入機関と細部を調整
- ・外国人モデルツアーは、主に朝大学受講生と受入機関がツアー日程、コース(体験メニュー)等について協議。協議会は全体調整。

##### 【航空機接続型定期観光バスを組み入れた旅行商品の造成】

- ・立ち寄りスポットと時間配分や説明内容について協議・調整。
- ・旅行会社と商品造成、PR方法について協議・調整。

##### 【広域利用のレンタカー低廉化実験】

- ・より広域的に事業を展開するため、富山・福井のレンタカー協会にも協力を要請。
- ・窓口での混乱を避けるため、キャンペーン開始時に、能登半島広域観光協会や協議会の職員が、同盟会職員と連携して対応し、受付～支払～アンケート回収の手順を確認。

##### 【ふるさとタクシーと広域観光タクシーの接続実験】

- ・タクシー協会と協議会で、事業開始前に、タクシー会社を対象とする説明会を開催し、事業の周知、助成スキームの検討を行った。
- ・窓口での混乱を避けるため、事業開始時に、能登半島広域観光協会や協議会の職員が、同盟会職員と連携して対応し、受付～支払～アンケート回収の手順を確認。

##### 【羽田空港のネットワークを活用した広域集客】

- ・乗継利用促進の出向宣伝にあわせて現地旅行会社を訪問、商品造成について協議。

#### 自己評価及び今後の改善点

##### 【社会活動型観光プログラムによる空港利用の創出】

- ・現体制のもと、協議会が主体となり今後も継続可能。ただし、協議会の人的負担が大きいことから、県奥能登事務所や市町、観光団体との間で一層の協同を図っていきたい。

##### 【航空機接続型定期観光バスを組み入れた旅行商品の造成】

- ・現体制に問題はないが、活プロ期間終了後の継続については、採算性や予算の確保が課題となると考えられることから、より効率的な手法がないかについて検討したい。

##### 【広域利用のレンタカー低廉化実験】

- ・体制面では継続可能だが、活プロ期間終了後の事業の継続については、採算性や予算の確保が課題となると考えられることから、事業の実施期間や助成金額・対象等について工夫できないか検討したい。

##### 【ふるさとタクシーと広域観光タクシーの接続実験】

- ・体制面では継続可能だが、活プロ期間終了後の事業の継続については、採算性や予算の確保が課題となると考えられることから、事業の実施期間や助成金額・対象等について工夫できないか検討したい。

##### 【羽田空港のネットワークを活用した広域集客】

- ・現体制を維持しつつ、航空乗継利用促進協議会のキャンペーンとの連動等を図りながら、関係機関との連携を強化し、旅行商品の定着、送客増加に取り組みたい。



## II 能登一羽田路線に係る取組の効果検証

### 3. 総括及び今後の取組の方向性

#### ● 全体総括

##### 【提案時の目標】

利用者数の増加と搭乗率の向上  
H26:1,915人増(搭乗率0.8%増)  
H27:4,340人増(搭乗率1.8%増)  
H28:7,350人増(搭乗率3.0%増)

##### 【全体実績】

H26:1,087人増(搭乗率0.9%増) --- 10月~3月  
H27:1,466人増(搭乗率1.2%増) --- 4月~9月  
↓  
搭乗率ベースで約1%前後の上積み

##### 【結果の要因】

活性化プログラムにおいて様々な取組を行ったことにより、搭乗率の向上を図ることができた。事業の実施にあたっては、新幹線やNHK連続テレビ小説「まれ」の放映による石川・能登の認知度向上も追い風となった。

#### 北陸新幹線金沢開業の影響

- 新幹線開業後、関東圏から石川県への観光入込が大幅に増加(前年比180%)。開業効果は能登地域にも波及しており、主要観光地の輪島や和倉温泉への入込も増加。
- 活プロ事業においては、金沢から空港への二次交通利用に増加傾向が見られるなど新たな空港集客の可能性の高まりも見受けられる一方、入込増加に伴いホテル等が押さえにくくなり旅行商品造成に制約が出ることや交通事業者の採算性や予算の確保が課題として明らかになった。

二次交通充実による空港集客の拡大に向けて、より効率的な手法を検討しながら新幹線と航空の相乗効果の波及を目指していきたい。

#### ● 今後の取組の方向性

##### 【社会活動型観光プログラムによる空港利用の創出】

- ✓ 多人数高頻度の催行には受入能力の問題があるが、事業効果の拡大に向け、関係機関と調整しツアー回数を確保したい。ツアー実施にあたっては、価格設定と集客力のバランスについて旅行会社と十分協議した上で、早めの募集に努めたい。
- ✓ 現地案内者(ボランティアガイド、通訳、職員)の対応が不十分との声もあり、改善を検討。

##### 【航空機接続型定期観光バスを組み入れた旅行商品の造成】

- ✓ 引き続き旅行会社と協議していくが、H27の利用状況も勘案しながら、個人等の利用増や将来的な採算性の確保が難しいと考えられる場合は、より効率的な手法がないか検討したい。

##### 【広域利用のレンタカー低廉化実験】

- ✓ 関係機関と連携して認知度向上を図るとともに、さらなる利用増に向けて、次期キャンペーンの内容を検討していきたい。

##### 【ふるさとタクシーと広域観光タクシーの接続実験】

- ✓ 助成の仕組みが分かりにくいという声が多いことから、より分かりやすいチラシ等により理解を深め、利用増につなげたい。
- ✓ 空港利便性の向上に向けた二次交通の改善策を探るための利用実態調査等の実施を検討したい。

##### 【羽田空港のネットワークを活用した広域集客】

- ✓ 航空乗継利用促進協議会の活動を通じて乗継の認知度向上に取り組むとともに、利用者への特典付与等を検討しながら、航空会社・旅行会社と連携して利用増につなげたい。

転用可能な取組

取組内容		実施方法等
1. 社会活動型観光プログラムによる航空利用の創出	社会活動に関心の高い層への誘客：首都圏在住者対象	地域資源を活用した新たな視点での体験型旅行商品の造成により、新たな需要創出を図る。
	外国人への誘客：首都圏在住外国人対象	地域資源を活用した新たな視点での体験型旅行商品の造成により、新たな需要創出を図る。
2. 2次交通の充実による空港集客域の拡大	(1) 定期観光バスを組み入れた旅行商品の造成（観光バスの実証運行、旅行商品のPR等）	定期観光バスを組み入れた旅行商品の造成により、空港から観光地への直行による航空利用者の利便性向上とともに、需要拡大を図る。
	(2) ふるさとタクシーと広域観光タクシーの接続実験（運賃助成）	二次交通（ふるさとタクシー、広域観光タクシー）の運行利点を組み合わせた交通網の形成により、航空利用者の利便性向上を図る。

チャレンジングな取組

取組内容		実施方法等
3. 羽田空港のネットワークを活用した広域集客	乗継旅行商品の造成（ハコフルットの作成、各エリアでの乗継旅行商品のPR）	広域の集客を目的とした羽田乗り継ぎによる旅行商品の造成により、新たな需要創出を図る。